

がん乗り越え公演再開

ボランティアで手品や変面披露

別府市の萱嶋仁侠さん



【別府】県内外の福祉施設や被災地などで手品や芸能ショーを披露してきた別府市竹之内の萱嶋仁侠さん(79)が、余命1カ月と宣告された末期の肝臓がんを乗り越え、ボランティアの公演活動を再開した。活動はこれまで1883回を数える。夢は2千回と新たな目標に向かい、多くの人たちを笑顔にしようと頑張っている。

近所の子どもたちに手品を見せて喜ばれたのが活動のきっかけ。自衛官だった1976年から、福祉施設などへの訪問を始めた。83年にはプロに弟子入りして芸を磨き、手品や猿回し、腹話術、変面ショーなど多彩なジャンルの芸を披露してきた。

がんが見つかったのは昨年5月。直徑約9㌢の腫瘍が見つかり、基礎疾患の影響などで手術をしても命の危機がある状態だった。当初は医師の説明も耳に入らず絶望した気持ちになつたが、「誰でもいつか死ぬんだ」と悟りを開いたようになりになり、手術することを決意。死を覚悟し身の回りの整理をしながら手術

は無事に成功。現在は経過観察をしながら通院する日々を送っており、体力も徐々に回復している。

「2度目の人生」2千回目標

「一度きりの人生というが無事生還したという思いから、今は2度目の人生を生きているという気持ち。公演を見てくれる人たちの『笑って元気になります』という声を励みに、体力の続く限り活動を続けたい」と話している。

(佐藤弘子)

余命宣告されたがんを乗り越え、ボランティアの公演活動を再開した萱嶋仁侠さん=日出町の太陽の家の障害者支援施設「ゆうわ